

平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	戦傷病者福祉事業			担当部局庁	社会・援護局		作成責任者	
事業開始年度	昭和47年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	援護企画課		井原 辰雄	
会計区分	一般会計			政策・施策名	Ⅶ-3-1 戦傷病者、戦没者遺族等に対して、援護年金の支給、療養の給付等の援護を行うこと			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	戦傷病者福祉事業助成委託費の交付について(平成27年4月9日厚生労働省発社援0409第17号)			
主要政策・施策				主要経費	恩給関係			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦を次世代の人々に伝えることを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦に係る資料及び情報を収集し、保存し、展示することにより、次世代にその労苦を伝えることを目的とする「しょうけい館」を運営する。							
実施方法	委託・請負							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	184	162	157	181	218	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
	計	184	162	157	181	218		
	執行額	184	162	157				
執行率 (%)	100%	100%	100%					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	平成27年度にしょうけい館の来館小中学校数を前年度以上にする。	しょうけい館の小中学校の来校数	成果実績	校	24	26	27	
			目標値	校	24	24	26	27
			達成度	%	100%	108.3%	103.8%	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	しょうけい館における広報資料の小中学校への送付箇所数	活動実績	箇所	418	155	60		
		当初見込み	箇所	471	418	155	60	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	しょうけい館の執行額/しょうけい館の入館者数		単位当たり コスト	円	1,260	1,481	1,287	-
			計算式	X/Y	165,618,000/131,437	158,622,000/107,105	157,122,000/122,067	-
平成27・28 年度 予算 内訳 (単 位: 百万 円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	遺族及留守家族等援護事務委託費	181	218	若年世代来館促進経費計上に伴う増、「新しい日本のための優先課題推進枠」24				
計	181	218						

事業所管部局による点検・改善					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	本事業の目的である戦傷病者等の労苦を次世代に伝えることは国の責務であり、国が実施すべき事業である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	本事業の目的である戦傷病者等の労苦を次世代に伝えることは国の責務であり、国が実施すべき事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	戦傷病者等の労苦を次世代に伝えることは重要であり、優先度の高い事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	本事業は、「戦傷病者福祉事業助成委託費交付要綱」に基づき、株式会社ムラヤマに委託しているが、委託に際しては、企画競争を採用するとともに外部有識者の意見も参考とし、委託先としてふさわしいか審査した上で決定している。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	実績を元に必要最小限の予算計上に努めている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	本事業は、しょうけい館運営事業費となっており、必要費目に限定されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	概ね見込みどおりの実績となっている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	本事業では、戦傷病者等の労苦を次世代に伝えるための展示施設を運営し、多くの入館者数を集めていることから実効性の高い手段となっている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	平成25年度途中に委託先が変わり、広報資料の送付については従来の大量送付する方法を改め、効率性を考慮して送付件数を見直したため、見込みを下回った。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	-	-	-		
点検・改善結果	点検結果	平成25年度は入館者数が前年度を下回ったものの、事業開始以来一定の入館者実績があり、実効性の高いものとなっている。平成26年度入館者数は、前年度よりも約15%増となっており、予算規模、支出もそれに見合った適正なものとなっている。今後は、より一層の入館者の増を図るとともに、次世代への継承を視野に入れた事業を行っていく必要がある。			
	改善の方向性	本事業については、運営有識者会議を開催し、事業の方向性や課題について議論しているが、平成27年度は戦後70年にあたるため、今後は次世代への継承をより一層進めていく必要がある、それを踏まえた予算措置を行っていく。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	点検結果は妥当であり、戦傷病者等が体験した戦中・戦後の労苦を次世代の人々に伝えるために必要であるため、引き続き、必要な予算を確保し、適正な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	-				
備考					
-					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	457	平成23年度	415	平成24年度	361
平成25年度	726	平成26年度	724		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

戦傷病者福祉事業

厚生労働省

157百万円

戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦を後世
代の人々に継承する。

【委託】

B.(株)ムラヤマ

157百万円

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万
円)

A.(株)ムラヤマ			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事務費	しょうけい館の運営に必要な印刷製本費、通信運搬費、光熱水料、借料及び損料等に係る経費	96			
人件費	しょうけい館の運営に係る職員給与	42			
事業費	しょうけい館の展示事業に必要な文献資料等購入費、証言資料収集費、資料保存管理費等に係る経費	19			
計		157	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト
A.民間会社

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ムラヤマ	戦傷病者やその妻等が体験した戦中・戦後の労苦を次世代の人々に伝えることを目的とする施設「しょうけい館」の運営を行う。	157	-	-